

NGP協同組合、令和2年7月豪雨の対策本部を設置

新型コロナウイルスの対策を徹底し、 水没車の引き取りを通じて被災地復興支援に尽力

活発化した梅雨前線の影響で、7月3日から九州地方を中心とした広い範囲で大雨となりました。この大雨によって、全国合計で住居の全壊587棟、半壊145棟、一部破損349棟、床上浸水7,880棟、床下浸水7,103棟(7月20日時点、内閣府発表)に及ぶ甚大な被害が発生しました。

この令和2年7月豪雨により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い命を落とされた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合では、熊本県南部を流れる球磨川が決壊した7月4日、いち早く対策本部を設立することを決め、大きな被害が発生した熊本県人吉市近辺にヤードを設置する方針で情報収集を開始しました。そして9日には人吉市に人吉ヤードを、15日には福岡県筑後市に長浜ヤードを設置し、被災車両の引き取りをスタートしています。

2020年九州豪雨対策本部では統括本部長を藤原庸正副理事長、九州本部長を齋木崇司理事、人吉ヤードの責任者を伊地知志郎氏(NGP九州支部所属、(株)オートパーツ伊地知・社長)、長浜ヤードの責任者を

中島邦晃氏(NGP九州支部所属、(有)オートリサイクルナカシマ福岡・社長)が務め、各ヤードでは組合員幹部・スタッフ及びNGP協同組合本部職員があいおいニッセイ同和損害保険(株)などからの依頼を受けて、被災車両の引き取りを進めています。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全国の組合員を被災地に集めることはせず、各ヤードではヤード近くに拠点を持つ組合員と本部職員が業務にあたっています。また、ヤードから離れた車両の引き取り依頼に対しては、引き取り場所に近い組合員が現地に伺い、自身の会社に車両を持ち帰ることで対応しています。

さらに復興支援活動を開始するに当たり、次の新型コロナウイルス対策を策定しており、それらを順守して作業に臨んでいます。

<車両引き取りに訪問する際の対策>

- ①マスクを着用して訪問します。
- ②消毒用アルコールと除菌ペーパーを携帯します。
- ③面談時、ソーシャルディスタンスを保持します(最低でも1m以上)。
- ④正面で向かい合っただの会話はなるべく回

避します。

- ⑤サイン等をお願いするときは、お客様の目の前でボールペンを消毒し手渡します(携帯用アルコールまたは除菌ペーパー等を使用のこと)。

<ヤード内での対策>

- ①マスクを着用して作業します。
- ②毎朝の検温。
- ③仮設事務所の消毒の徹底。
 - ・事務所内で使用する設備機器・道具類は、常に消毒すること
 - ・朝・昼・晩の、定時に消毒作業を行うこと
 - ・お預かりした書類・鍵も消毒のこと
- ④仮設事務所の三密の回避
 - ・定期的な換気をする
 - ・好天時の打合せは事務所外で実施のこと
- ⑤引き取り時使用する車両の消毒の徹底
 - ・特に運転席、ドアの取っ手等

NGPIは、新型コロナウイルス対策を徹底しつつ、今後も復興支援に丸となって取り組んで参ります。



引き取った被災車両が並ぶ人吉ヤード



車両引き取りに使用するレッカー車及び積載車、ヤード内で車両を移動させるフォークリフトは、組合員各社が持ち込んだもの



ヤードに運んだ後、保険会社からの依頼内容と誤りがないか、車両を確認

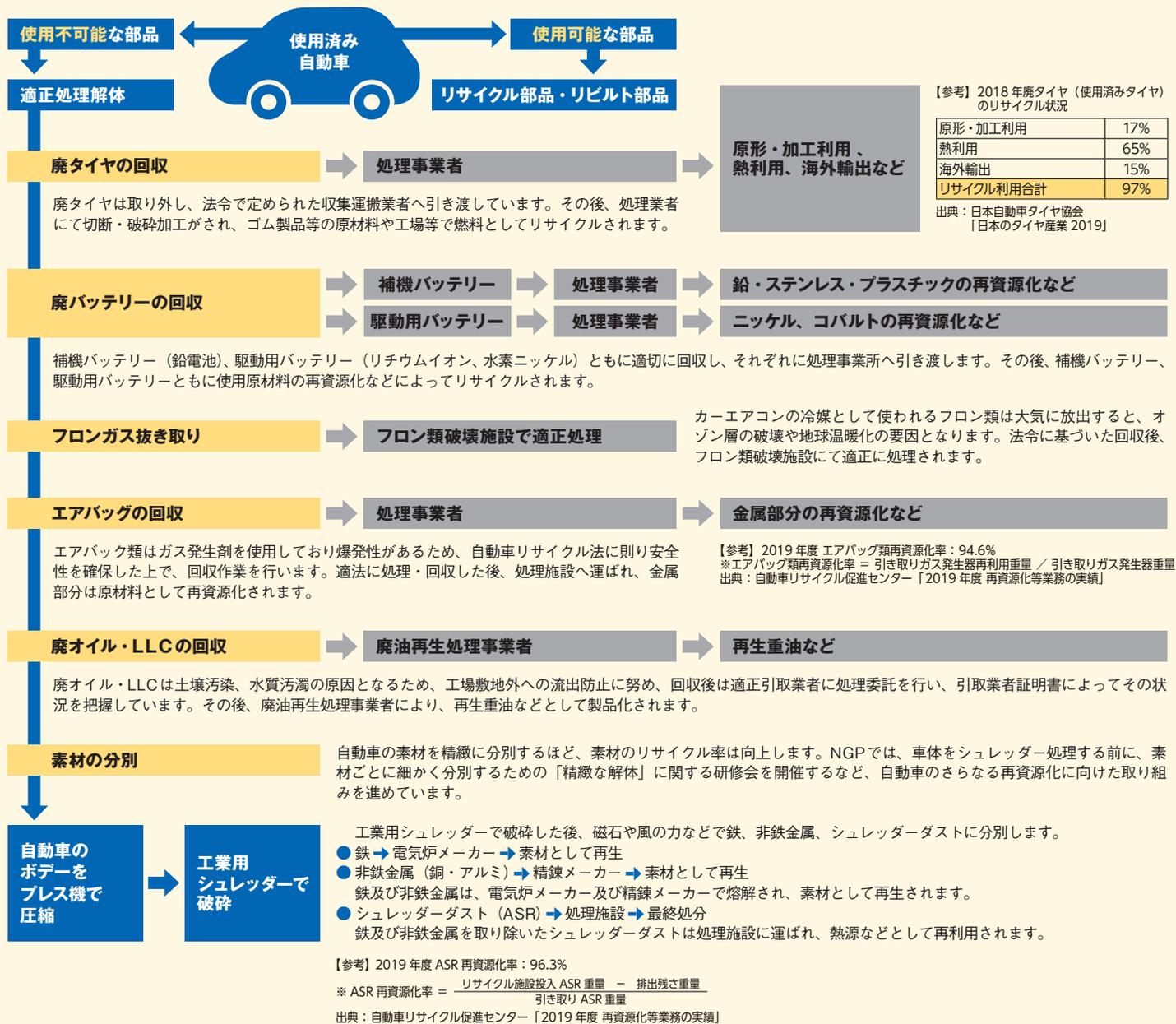
NGP リサイクルパーツ ができるまで

第2回 使用済み自動車の適正処理

本コーナーはNGPリサイクル部品ができるまでの過程を解説し、リサイクル部品の品質・安全性確保や地球環境負荷低減に向けて、NGPがどのように取り組んでいるかを紹介して参ります。

第2回目は、リサイクル部品として使用可能な部

品を取り外した後の使用済み自動車の処理、再資源化までの流れについて紹介します。NGPでは使用済み自動車の再資源化のために、最新設備と高い技術力で有用な金属類を回収し、環境のための資源循環事業を展開しています。



NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和2年6月： **2,473t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和2年6月： **1.6t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGPは、環境マネジメント国際規格「ISO14001」の認証取得を組合員全体で推進しています。組合員は、それぞれの事業内容や地域特性を考慮して、省エネルギー、リサイクル・廃棄物抑制、大気・水質汚染防止等の環境改善活動に組織的・継続的に取り組んでいます。

自動車基準調和世界フォーラム (WP29)第181回会合開催 自動運行装置 (レベル3)に係る国際基準が成立

国土交通省は6月25日、国連の自動車基準調和世界フォーラム (WP29) 第181回会合において、自動運行装置 (レベル3) に係る国際基準が初めて成立したことを発表しました。日本は、WP29傘下の専門家会議などにおいて共同議長などの役割を担い、官民オールジャパン体制で議論をリードしました。

自動運行装置の国際基準の主な要件は、
・自動運転システムが作動中、乗車人員お

よび他の交通の安全を妨げるおそれがないことについて、注意深く有能な運転者と同等以上のレベルであること

- ・運転操作引き継ぎの警報を発した場合において、運転者に引き継がれるまでの間は制御を継続すること。運転者に引き継がれない場合はリスク最小化制御を作動させ、車両を停止すること
- ・運転者が運転操作を引き継げる状態にあることを監視するためのドライバーモニタ

リングを搭載することなどが挙げられました。

国内においては今回の国際基準の成立に先行して、今年4月1日に同等の内容で自動運行装置に対する保安基準を施行しています。自動運行装置の保安基準の詳細に関しては国土交通省Webサイトまたは、NGPニュース2020年5月号「国交省、自動運転車に関する安全基準を策定」で紹介しています。

NGP組合員 かわら版

NGP、ベルマーク「バーチャル説明会」に協力 自動車リサイクル事業の概要や 循環型社会構築へ向けたNGPの取り組みを動画で紹介

NGP協同組合が協賛団体として2012年より加入しているベルマーク教育助成財団 (銭谷眞美理事長) は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国94会場で予定していた「2020年度ベルマーク運動説明会」の開催を、全会場で中止しました。説明会の中止に伴い、同財団はWebサイト上 (<https://www.bellmark.or.jp/>) に「バーチャル説明会」コーナーを設置し、財団の現状や支援実績などに関する説明動画を公開しています。

全国の説明会に参加を計画していたNGPはバーチャル説明会の取り組みに協賛し、説明会会場で放映を予定していた「廃車王サービス」と「SDGsの取り組み」を紹介する動画を提供しました。「廃車王サービス」の動画では、廃車

王のサービス内容紹介を入り口として、国内における使用済み自動車の発生台数を示し、使用済み自動車をリサイクル部品及び資源として再利用することが、いかに循環型社会の構築に貢献するかを解説しています。

「SDGsの取り組み」を紹介する動画では、冒頭で廃棄物を抑制し環境負荷低減につながる自動車リサイクル事業が、持続可能な社会の実現に必要な不可欠なものであることを説明するとともに、国内最大級の産業廃棄物不法投棄事件「豊島事件」の概要を示し、その過ちを繰り返さないために何ができるかを考えることの重要性を訴えています。

これらの動画は現在、ベルマーク教育助成財団のWebサイト上で公開されています。



ベルマーク教育助成財団Webサイト内「バーチャル説明会」で公開されているNGPの動画

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	カースチール株式会社	会社代表	代表取締役 金子 剛	2020年6月23日
九州	株式会社パーツランド東部	会社代表	代表取締役 村田 慎一郎	2020年7月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノンVOC インキ (石油系溶剤0%) など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、印刷事業において発生するCO₂全てをカーボンオフセット (相殺) した「ゼロカーボンプリント」で印刷しています。